

生涯学習センター

平成25年度生涯学習関係職員実践講座(基礎編)の報告

佐賀県立生涯学習センターでは、生涯学習・社会教育関係職員に必要な知識や実践力を身につける「生涯学習関係職員実践講座」(基礎編・実践編・課題編)を行っています。

6月5日(水)、28日(金)2日間の基礎編講座は、『生涯学習、社会教育の役割理解 ～仕事の基本をデザイン～』をテーマに取り組みました。

1日目 6/5(水)



【講師】
清國 祐二 さん
(香川大学生涯学習教育研究センター長・教授)

変化する時代の中で、生涯学習・社会教育に携わる職員に求められている役割とは何か。また、住民の自主性・主体性を育む参加型学習について、香川大学の清國先生を講師にお迎えし、受講者自身が体験することで理解が深まる、多様なワークショップを取り入れていただきながらご指導いただきました。

(午前) 生涯学習、社会教育関係職員の仕事 ～変化する時代に求められる役割～

午前の講座は、生涯学習・社会教育を取巻く環境の変化を踏まえながら、職員にはどのような資質、能力が必要なのか学びました。



講座1日目スタート

はじめに、今の社会では気づきを促すことが大切なことだと指摘されました。本人が変わろうと思わなければ何も変わらない、教えて指導することが通用しない時代になったということです。生涯学習社会では学習者が個人という側面が強く、個人が高まることも重要ですが、その成果を社会にどう出していくかを考えることが必要だと述べられました。社会教育職員の大きな役割である学習環境を整えるためには、職員自身が企画力・コーディネート力を備え、相手に真意を伝えることのできる多様な言語を使う(相手にあわせて話す)ことが大切と語られました。



午前の講義においてもリラックスのためのアクティビティを体験しました。左の写真は、一筆書きが何に見えるかを自由な発想で考え、さらに2人で想像できるものを出し合っているところです。仲間がいることで発想が膨らみ、相手のリアクションや共感があると、自然と意欲やがんばろうという気持ちが出てくるものです。それぞれの活動において、参加者に声を出してもらいたい時、にこやかな雰囲気づくりやコミュニケーションを図りたい時など、いろいろアレンジして使えるワークを体験することができました。

いろいろな発想で語り合うワークの様子

(午後) 「自主性」「主体性」を育む学びとは ～参加型学習の可能性と実践～

午後は、参加型学習を体験しながら、学習者相互の関係づくりやファシリテーションの基本について学びました。



県内各地の職員との交流が展開されたワールドカフェの様子

ワールドカフェでは、テーブルを変わるたび前の成果を次に活かすという視点や、違った自分の表現などを受講者自身が考えて取組んでいく時間を共有しました。講師から、社会教育関係職員は「聴く」「訊く」の2つの「きく力」を意識して欲しいと呼びかけられました。特に「訊く力」は相手への的確な質問(相手の能力を引き出す質問力)につながり、職場でこの力を活かせれば、地域からの信頼度は各段に上がると言われました。「きく力」は地域からの協力者、理解者を増やすポイントの一つです。

受講者の声（講座アンケートより抜粋）

- 社会教育関係職員に求められているスキルや自分が置かれている立場を学ぶことができました。
- ワールドカフェの手法はコミュニケーションを高めるうえで大変参考になりました。
- 違う立場、職種間での交流ができ、色々な人との関わりを深めたいと感じました。
- ワークショップはで人とのコミュニケーションの取り方、アプローチの仕方など色々考えさせられました。
- 午後の最後の各班発表では、プレゼンの重要性も感じました。

2日目 6/28(金)



【講師】
志々田まなみ さん
(広島経済大学准教授)

地域や住民のためになるものを、どう企画し運営していくのか、地域課題に即した学習機会を創造する技術は生涯学習関係職員に求められている重要な課題です。広島経済大学の志々田先生を講師にお迎えし、私たちの日ごろの取組みを『見極める力』、『改善する力』に焦点をあてていただきながら、学習プログラムの基礎についてご指導いただきました。

(午前) 学習プログラムとは何か ～プログラムの役割と種類～

午前の講座では「学習プログラムのチェックポイント」の理解を目標に、受講者の交流を図りながら、「見極める・改善する」ために必要な知識を学びました。



まずは「飴」を使った自己紹介のアイスブレイク！3分間にぎやかに自己紹介が展開されました。じゃんけんに勝ったら相手の飴をもらい、負けても笑顔で次の相手を探して自己紹介じゃんけん。自然に笑顔と会話がはずみました。講師からは「人が集まる集合学習では、まわりとの意見交換、伝え合うことが大事なことです。今日の講座でも、わからなくても自信がなくても、素朴に感じたこと考えたことを出し合いながら交流していきましょう」と語りかけていただき、雰囲気が和んだところで2日目の講座がスタートしました。

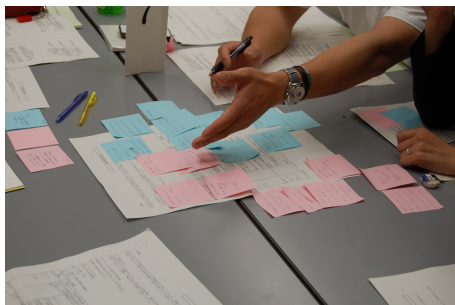
アイスブレイクの様子

学習プログラムの計画では「どんな成果を導きだすか」「何のためにやるのか」考えることが大切です。プログラムの目的と目標の違いを理解し、書き分けられる技術を身につける必要性を学びました。また、学習は小さな気づきの積み重ねであり、単発の事業や初級の講座ばかりでは次につながるステップとなりにくいことを示されました。学習者である地域住民が目的に向かって進みやすい道順を創っていくことが、生涯学習、社会教育の専門の仕事。それぞれの事業をぜひ一度振り返ってみてと呼びかけられました。



(午後) 企画立案のポイント ～プログラム構成と展開の工夫～

午後の講座では、午前中に学んだ知識を活用しながら、学習プログラムを改善する技術を身につける、事例分析のワークショップに取組みました。



ワークショップの様子
良い点と改善点が貼
りだされたプログラム
シート

学習プログラムを見直す19のチェックポイントをベースに、グループに分かれて既存のプログラムを見直していく事例分析に取組みました。はじめに個人ワークで良い点と改善点をポストイットにつくり、その後、グループ内で自分達はそのプログラムを実施するのであればどう改善するのか話合いました。他のグループの改善案にも耳を傾けながら、ちょっとした見方、視点を変えてみることで、よりよいプログラムに変わっていくことを具体的に学びました。各グループのシートには、それぞれ改善点がたくさん書き込まれていました。

※実際に改善点を書きこんだプログラムシートを抜粋して紹介します。

注)完成したプログラムではありません。

-  事例1…防災(518KB; PDFファイル)
-  事例2…文化財(610KB; PDFファイル)
-  事例3…家庭教育(553KB; PDFファイル)

受講者の声 (講座アンケートより抜粋)

- 学習プログラムの目的と目標のつながりが認識できたので、今後の業務に活かしていきたい。
- 学習プログラムを見直す観点を理解することができました。
- 学習プログラムを改善する視点でのワークが良かった。よりプログラム作りを理解することができました。
- 地域課題を見据えた学習プログラムを考えることはとても難しいことですが、社会教育においてすごく大事なことだとわかりました。
- 事業計画の立て方が特に勉強になりました。再度、資料を読んで努力していきたい。

[≪ 戻る](#)

[↑ このページの上部へ](#)

 佐賀県立男女共同参画センター
佐賀県立生涯学習センター

 [アクセス・交通機関のご案内](#)

 [お問い合わせ/ご意見・ご要望](#)

アバンセ
佐賀県立男女共同参画センター・佐賀県立生涯学習センター

〒840-0815
佐賀県佐賀市天神三丁目2-11(どんどんの森内)

TEL:0952-26-0011 FAX:0952-25-5591

【指定管理者】公益財団法人 佐賀県女性と生涯学習財団

Copyright (C) 2011 Avance All rights reserved

開館時間

火曜～土曜日:8時30分～22時00分
日曜・祝日:8時30分～17時00分
(ホールは22時00分まで)

休館日

毎週月曜日(祝日も含む)

